

所属・資格 心理学科・准教授

申請者氏名 齋藤 慶典

研究課題		目標志向性, 自己制御, 自己高揚に関わる動機づけ概念の整理と検証
報告の概要	研究目的 および 研究概要	動機づけに関わる概念には, 異なる側面から提案されてはいるものの, 類似した概念が存在する。目標志向性に関する approach と avoidance, 自己制御に関する promotion と prevention や, 自己高揚 (self-enhancement) と self-criticism などである。これまで目標志向性を中心に研究を行ってきたが, 独立変数の設定や実験結果を解釈する上で, 目標志向性と類似した概念やモデルを整理する必要性が出てきた。本年度はこれらの概念についての文献研究と, 相違点を検証するための実験・調査を実施する。
	研究の結果	申請者の選好による偏りを緩和するため, 分野の異なる研究者に協力を得て, それぞれの視点で目標志向性や自己制御等の内容を含む達成動機に関する研究論文を約 400 本収集し文献研究を行なった。その結果, 理論の主軸 (快を避け快に向かうという人間行動の基本原理を主軸としているか, そのような背景を仮定していないか), 階層 (心的過程だけでなく生理学的過程についても検証しているか否か), 目標志向性, 認知的評価とそれに伴う情動的反応の仮定といった点で, 類似するように思われたいくつかの概念を弁別できると考えられた。
	研究の考察・反省	今後, 生理心理学的な枠組みで達成動機の研究を進めてゆくことを目的としてレビューを行なったが, 先行研究において生理心理学的研究は少なく, かつ, 原始的情動 (報酬や罰に対する快・不快など) に焦点を当てたものがほとんどであったことから, 目標志向性や認知的評価といったより複雑な過程について生理心理学的検討を行うことの必要性と, そのような認知的過程を反映する生理的活動を探索することの重要性を再認識した。本年度は概念の整理のみで検証を行うことができなかった。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は, 本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 生理的指標を従属変数として用いた検証ののち発表を行う予定である。本年度中には検証実験を行うことができなかったため, 成果の公表は行わない。